令和６年度　学校自己評価重点目標シート

学校教育目標	1　進んで学習する生徒　　2　明るくやさしい生徒　3　体を鍛える生徒
目指す学校像	生徒一人一人を大切にする信頼される学校

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学　校　自　己　評　価						学校関係者評価
領域	年度目標		年度評価			学校関係者からの意見・要望・評価等
	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
組織運営	○目指す学校像を共有ビジョンとし、教職員一人一人が「生徒一人一人を大切にする指導・支援の在り方」を認識し、確実な実践を行うことにより、組織としての指導体制の確立を図る。 【努力点】 ・学校教育目標の具現化 ・学級経営の充実	・年度当初における学校経営方針の明確化と共有ビジョンの確認 ・教頭・教務主任と綿密な情報共有を図り、学校運営上の諸課題解決や予見される組織運営上の問題への対処を迅速に行う。	◎年度当初の諸会議等で共有ビジョンの確認を行うとともに、意識付けをすることができた。 ◎管理職及び主任等との情報共有は適宜適切に実施し、学校経営・学校運営上の齟齬が生じないように情報共有を図ることができた。 ▼教職員評価において、校務分掌の在り方や教職員間の共通認識の差についての疑義がみられることから、諸場面における確認や対応方針の明確化など、意識のずれが生じない工夫が必要である。	B	◎学校経営方針の明確化と確認を丁寧に行いつつ、日々の教育活動における諸課題解決のための取組方策について、共有化を図る組織体制の整備に取り組む。	【組織運営】 ・校務分掌の機能、評価も適正に行われており、各教職員の意識はもとより、よい組織づくりがなされている。 【教育課程】 ・学校行事（音楽祭・体育祭等）で生徒が生き生きと躍動していて、充実した教育活動が展開されている。 ・授業公開等で参観した授業はどれもアクティブ・ラーニングやＩＣＴ活用などの工夫がなされた充実したものであった。 ・「東中スタイル」の実践により、充実した授業が展開されていてよい。また、昔に比べて活動的な授業が多く、生徒が楽しんで学びに向かう様子が良かった。 【開かれた学校づくり】 ・地域との連携も含めて開かれた学校づくりの具現化が進んでいる。教職員の負担軽減との両立の課題には引き続き取り組んでほしい。 ・多くの学校行事が公開されており、生徒の充実した様子を垣間見ることができてよい。安全面の配慮をしながら継続してほしい。 【教職員の資質向上】 ・スキルアップに向けた手立てが工夫されており、初任者を含めたキャリア段階に応じた適切な人材育成がなされている。 ・教員が担う業務（量）については、各教員の能力差により偏りが出てしまうことは否めないため、チームで業務に当たるなど一層の工夫が求められる。 ・勤務状況については、各企業でも部署ごとの勤務時間の目標設定や評価、キャリアの浅い者のフォロー、チームでの対応などの取組が進んでいる。学校でも更なる工夫により、課題解決に取り組んでほしい。 ・各種研修等への積極的な参加を推進する一方、予算削減による出張旅費が厳しい状況も理解した。資質向上に必要な研修を受けられる予算措置や環境整備が進むことを望む。 【施設・設備等の管理】 ・学校予算が厳しい状況も理解しているが、老朽化が進む施設を大切に使われていることがわかる。照明のＬＥＤ化を含めた環境整備、生徒の安全確保のための修繕など、現時点で十分とは言えない教育環境の整備に必要な予算措置がなされ、教育活動が一層充実することを望む。 ・教育環境の整備に必要な予算があるのか心配である。委員（地域）として学校の後押しとなる取組について模索していきたい。 【その他】 ・部活動については、地域移行の問題など難しい時期に来ているが、教育的効果を考慮し、可能な範囲での学校部活動の充実をお願いしたい。
教育課程	○主体的に課題に取り組む生徒の育成のために「東中スタイル」の確立を目指し、研修と実践を通して具現化を図る。 ○生徒会活動など、生徒が自主的に考え、活動する場を意図的に設け、適切なフィードバックにより生徒の意識を高める。 【努力点】 ・生徒指導・健康教育・教育相談の充実 ・生徒会活動の活性化 ・各教科及び領域等の指導の重点の具現化	・校内研修において、今年度の研究の方向性の確認と具体的実践における振り返りと改善への取組を確実に実施する。 ・生徒指導部会や教育相談部会とともに、校務分掌における生徒の活動状況等の定期的な現状確認と課題の洗い出し、対応策のとりまとめと実施を徹底する。	◎保護者アンケート及び生徒アンケート結果において、行事への取組、行事を通した教育的指導の効果を肯定的に受け止める結果が見られた。 ▼授業を楽しい、分かりやすい授業である、学力を高める指導の工夫などの観点のアンケート結果は、学年間での差がみられるとともに、授業のあり方については改めて教員間で共通理解を図る必要がある。	B	◎今年度までの校内研修で得た知見を活かし、授業改善や行事における生徒の自主的活動の場の確保などによる達成感や自己有用感を持たせる支援に取り組む。	
開かれた学校づくり	○コミュニティスクールを核とした地域連携を更に推進し、教職員の負担軽減とのバランスに考慮した学校地域協働活動の活性化を目指す。 ○積極的な情報発信による学校教育活動の開示性を高める。 【努力点】 ・学校の教育活動の積極的な発信 ・地域との協働行事の充実	・学校運営協議会委員との意見交換を踏まえ、今後のコミュニティスクールの在り方について3校での合意形成を図る。 ・ＨＰ等を活用し、学校の教育活動の情報発信を積極的に行う。 ・3校合同若しくは小中学校連携としての取組、行事等を積極的に行う。	◎行事等の公開、保護者・地域の方々の招聘等は、前年度より機会も含めて多くなった。 ◎ＨＰの公開も月２回程度の更新が実施できた。 ▼保護者アンケートでは、学校に対する要望対応状況が９割に満たず、学校の教育方針の伝達においても９割未満であり、改善策をとる必要がある。	B	◎学校からの情報発信や教育活動の広報や公開について学校運営協議会委員や地域の方々との情報共有の在り方をより良いものに改善していくよう見直しを図る。	
教職員の資質向上	○東中学校における「働き方改革」推進のために、業務量の削減とワークライフバランスの取り方を改善していく。 ○教職員各自のキャリア形成の意識を高め、自己の課題の明確化と今後の自己研鑽への意欲を喚起する。 【努力点】 ・研修活動の活性化	・業務の棚卸を実施するとともに、業務量の平準化の実現、負担の多い場合の対応策などを準備し負担軽減を図る。 ・定時退勤やふれあいデーの実施、会議の効率化などを行う。 ・経験年数に応じた教員グループごとに、適宜面談を行い、指導方法の振り返りと自身が抱える課題等への助言を行う。	▼勤務状況調査において、時間外在校等時間月８０時間超の割合は０％であるが、４５時間超の職員が５割程度みられ、働き方改革が思うように進捗しない。 ▼業務量の偏在感を訴える職員があり、実際に諸対応のために時間外対応に忙殺される場面もみられた。	C	◎業務量の平準化とともに、定時退勤やふれあいデーの各自設定による着実な実施を行う。また、経験年数の浅い職員への育成指導も今年度以上に取り組んでいく。	
施設・設備等の管理	○校内環境の整備と定期的な安全点検等を通して、迅速な対応による施設事故を防ぐ。 ○予算執行状況を管理職が定期的に把握することを通して、効率且つ効果的な予算を執行する。 【努力点】 ・計画的な予算執行 ・迅速な修繕の実施と環境整備の充実	・定期的に実施する安全点検結果を踏まえた修繕の確実な実施と、自助努力では解決困難な箇所の教育委員会との連携による修繕を確実に実施する。 ・予算執行状況において、偏りや不適切な執行がないように、事務主幹と管理職が状況を把握し、適正な執行を徹底する。	◎予算執行状況については、定期的に令達予算の執行状況確認を行った。特に、旅費切迫に係り、教職員の出張方法で削減に着手し実施できたことは大きい。 ▼令達予算内での物品購入や修繕が、一部停滞することがみられ、引き続き市教育委員会との密な情報共有が必要である。	A	◎コストカットの意識を改めて教職員全員で共有しつつ質的低下にならない配慮と生徒の安全確保のための修膳は、教育委員会と連携を密にして実行していく。	